

2020年度事業報告書

認定特定非営利活動法人 横浜日独協会

1. 事業の成果

日本とドイツの草の根交流に取り組んできた横浜日独協会は2020年10月に設立10周年を迎えた記念すべき年として、「横浜とドイツの絆—横浜日独協会10年の歩み」と題した記念誌を発行した。本年度は当初より新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言発出などにより、設立10周年記念事業記念式典や記念コンサートの中止もしくは大茶会の延期、各種イベントのオンライン化など大幅な変更を余儀なくされた。

2020年7月当協会は国内の日独協会では初の認定NPO法人化を実現した。認定NPO法人となり新たな使命を担う当協会に求められるのは、日独交流の取り組みの発展・深化に加え、市民活動の一層の広がりであり、本年度より個人会員会費の値上を行うとともに、個人・法人会員の拡大ならびに寄附金等による財政基盤強化につながるファンドレイジング（資金調達）に取り組んだ。後期に入り認定NPO法人としての今後の中長期を展望し、日独の交流を通じ相互理解を深め、将来を見据えて活動を積極的に展開し、目標とする10年後の将来像を描く中長期ヴィジョンの策定に取り組むプロジェクトをスタートさせた。

2021年は日独交流160周年記念の年にあたり、年初よりドイツ大使館の承認を得たシンボルのロゴマークを、当協会が開催したイベントあるいはホームページや会報、チラシなど広報の際に活用し、日独交流の理解と協力と参加を呼びかけた。

2. 活動内容

横浜市とドイツとの市民相互による草の根レベルの相互交流をさら進め、日独両国の文化・政治・経済の基礎をなす価値と伝統をさらに発展させることが横浜日独協会の大きな役割であるが、本年度は協会設立10周年を記念する年だったが、新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言などに対応して事業内容を大幅に変更した。コロナ禍にあっても新しい事業スタイルのオンラインイベントのように、活動の内容や参加者層の幅を広げる機会を生むことになった。

- ① 日独相互理解事業では、設立記念事業として記念誌の発行は実現したが、日本とドイツの文化・教育・芸術等の分野で開催予定だった、市民やドイツからの来客が参加する記念式典・記念講演及び記念コンサートなどの記念事業は新型コロナ感染拡大防止のため中止にした。同事業の一環として予定した三溪園での日独交流大茶会は次年度に延期して開催することとした。

当該事業の柱になっていた各種イベントについては、年度当初よりコロナ禍への対応として、オンライン配信器材や関連ソフトなど環境整備を行ない、講演会や演奏会あるいは講習会を安全に開催できるように、またインターネット関係NPOの支援を受けな

がらオンラインによるイベントとして開催できるようになった。

本事業においてインターネットの活用により、神奈川県はもとよりドイツを含む幅広い地域の参加者があり、従来とは異なる気軽で楽しめる各種のイベントを通じ日独相互交流を実現することができた。遠くドイツから独日協会会長の日独交流 160 周年記念に向けた日本語のメッセージを多くの方々が視聴できことはそのよい事例だった。

- ② 日独青少年交流事業では、当初予定していた若者を中心にグローバルな次世代育成と女性の社会的活動に関するフォーラムは新型コロナウイルス感染防止のために中止とした。

前年度コロナ禍のため延期したドイツ・フランクフルト市への作文コンテスト高校生派遣は、本年度においても実施できなかったが、最優秀者 2 名に対して本年度末に人数限定で対面による表彰状ならびに記念品の贈呈式を行った。

フランクフルト市からの高校生の受入は本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

横浜市とパートナー都市であるフランクフルトの日本総領事館が企画したフェイスブックでは、当協会が受け入れたドイツ人高校生のホームステイでの様子が紹介されるなど当協会の活動の広がりを見ることができた。

- ③ 日独経済情報普及事業では、地域の中小企業を対象にイノベーション分野のドイツ企業の実情について、「中小企業モノづくりのデジタル変革（DX）」と題して、企業経営の大きな課題となっているデジタル改革についてのオンラインセミナーを開催した。今回の開催にはバイエルン州駐日代表部、ジェトロ横浜および横浜企業支援財団とのコラボレーションによって、日本とドイツとの企業間連携の推進に有益だった。

在日ドイツ系企業・大学など研究機関と地域中小企業との情報交換や法人間交流がオンライン開催に移行する中で、当協会の取り組みにおいても地域企業支援団体（横浜企業経営支援財団・横浜商工会議所・ジェトロ横浜）及びDJW（日独産業協会）、バイエルン州在日代表部などとの新たな連携のチャンネルが広がった。

- ④ 日独関係団体連携事業では、当協会設立 10 周年記念事業を中心に、多様性、ネットワーキング及び持続可能性をキーワードに独日・日独協会を中心とした連携を進め日独交流の深化をめざす予定だったが、コロナ禍にあつてドイツからの関係団体などの受入れは実現できなかった。

当協会の 10 年間の歩みを記した記念誌を駐日ドイツ大使館ならびに横浜市国際局に寄贈した際に、横浜日独協会の市民活動としての日独交流への大きな期待の声が寄せられた。また国内外の発送先からのメッセージからも両国の草の根交流の広がりを実感する機会となった。また、協会が発行する会報や協会主催講演会などを通じ、国内の日独協会と連携の広がりとなった。

3. 事業内容

《特定非営利活動に係る事業》

① 日独相互理解事業	<p>・協会設立 10 周年記念事業として記念誌「横浜とドイツの絆—横浜日独協会 10 年の歩み」を発行した。記念誌の印刷製本は“よこはま夢ファンド”の助成金を活用し、日独交流を推進する国内外の関係者に 1,000 部を贈るとともに、国内ではドイツ大使館、横浜市国際局など多方面の関係機関、団体に贈った。</p>	10 月～12 月	横浜市内 ／県内各地 ／栄区 あーすぷらざ ／中区	5 人×5 回	ドイツに関心のある市民・県民 1,000 人	309,505 円
	<p>・協会設立 10 周年記念式典、基調講演会ならびに演奏会は中止にした。記念事業の一環で開催予定の三溪園を会場にした大茶会は 1 年間延期とした。</p>	10 月				
	<p>・市民・県民・在住ドイツ人を対象に、日独の相互理解を深めるための文化交流目的に、当協会としては新たなオンラインイベントとして、チーズ普及協会による「チーズの話」、ドイツ大使館首席公使による「日独修好 160 周年と今の状況について」のテーマで講演会を開催した。</p>	1 月、3 月		3 人×6 回		

<p>① 日独相互理解事業</p>	<p>・文化委員会文化活動／百人一首を読む会（オンライン講座）</p> <p>・都筑区で行われたクリスマスマーケット（オンライン開催）の後援団体として参加した。</p> <p>・当協会の活動の拠点を、本年度当初から横浜市中区桜木町から横浜市栄区小菅ケ谷に移すと共に、横浜市市民公益活動緊急支援助成金を活用し、幅広い市民・県民による日独交流が展開できるよう、新たな活動の基盤の一つとなるオンラインイベントシステムのハード面の整備を行った。</p> <p>・記念誌発送に続き会報の発送などを障がいのある人が利用する活動支援センターに委託し、地域社会資源の活用を進めた。</p>	<p>10月、11月、12月、1月、2月、3月</p> <p>12月</p> <p>2月</p> <p>10月</p>	<p>横浜市内／都筑区</p> <p>栄区</p> <p>川崎市麻生区</p>	<p>2人×7回</p> <p>3人×3回</p> <p>3人×5回</p>	<p>県市内在住市民と県市内在住ドイツ人及び関係者等 90人</p> <p>10人</p> <p>15人</p>	<p>197,055円</p>
<p>② 日独青少年交流事業</p>	<p>・高校生作文コンテスト参加校を拡大し優秀者2名フランクフルト市への派遣事業については、横浜市若者支援助成金制度の実施が見送られ、新型コロナウイルス感染防止のため派遣は中止とし、表彰状及び記念品の贈呈式というスタイルに代えて実施した。</p>	<p>3月</p>	<p>横浜市内／戸塚区</p>	<p>3人×5回</p>	<p>ドイツに関心ある市内高校在校生等 11人</p>	<p>64,607円</p>

② 日独青少年交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ大使公邸夏祭りに当協会ヤングクラブから代表者が参加した。 	9月	東京都／港区	1人×1回	若者とドイツ人及び関係者等	56,873円
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングクラブと全国のヤングクラブによるSNS等を活用したネットワークを広げるオンラインイベントなどのための配信器材一式を整備した。 	11月	横浜市内／栄区	2人×3回		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市内在住ドイツ人を対象に、日本とドイツの若者及び女性が日独両国の協力、交流や女性の社会進出について体験を交え、将来の方向性を話し合い、親睦を深める機会になる日独ユース・女性フォーラムはコロナ禍のため中止とした。 	6月	横浜市内／県内		市内在住の若者とドイツ人及び関係者等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ・フランクフルト市の派遣青少年受入れは、フランクフルト市側が新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となったため、横浜の青少年との相互交流は中止となった。 	4月	横浜市内		ドイツに関心のある高校生並びに若者等	

③日独経済情報普及事業	<p>横浜市内等の中小企業を対象に、日独相互の技術交流・情報交換等に関する機会を提供した。今回はイノベーション分野のドイツ企業の実情について、「中小企業モノづくりのデジタル変革（DX）」と題して、企業経営の大きな課題となっているデジタル改革についてのオンラインセミナーを開催した。</p>	3月	横浜市内／県内各地／中区	3人×5回	在横浜ドイツ系企業と日本企業関係者等 100人	44,248円
	<p>・ドイツ系法人会員の拡大、会報への記事掲載等による広報活動を充実させた。</p>	4月、7月、10月、1月		3人×4回		
	<p>・日独産業協会（DJW）オンラインセミナーに参加し、横浜とドイツ両国の中小企業支援に資する情報収集に努めた。</p>	10月		10人×1回		
	<p>・中小企業支援財団、横浜商工会議所、ジェトロ横浜ならびにバイエルン州駐日代表部等との連携の促進に務めた。</p>	通年		3人×5回		

④日独関係団体連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・協会設立10周年記念事業として発行した記念を国内日独協会及びドイツ各地の独日協会に贈り連携の強化を図った。 	10月～12月	横浜市内／県内各地	5人×10回	市民及び市内在住ドイツ人と諸団体並びに関係者等人	30,430円
	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市内等の日独関連諸団体との各種イベントの共催や参加は、オンラインという新たな方法の交流スタイルが実現できた。 	4月、7月				
	<ul style="list-style-type: none"> ・友好関係を結んでいるフランクフルト独日協会とは、現地で行われた演奏会のビデオ鑑賞などを通じて交流を深めた。また現地の街の様子を伝えるレターを会報やホームページに掲載するなど市民・県民と共有することができた。 	4月、10月				
	<ul style="list-style-type: none"> ・根岸外人墓地／戦没ドイツ兵士墓前祭献花 	11月				
	<ul style="list-style-type: none"> ・4月全国日独協会、5月全国独日協会それぞれの情報交換の機会はコロナ対応ため中止となった。 	4月、5月				
	<ul style="list-style-type: none"> ・4月来日予定だったハンブルク桜の女王受入はコロナ禍のため中止となった。 	4月				